

国 労 ち ば

国鉄労働組合
千葉地方本部
発賣 加藤 晃一
編集 高橋 弘幸
【電話】
JR 2930 FAX 2934
NTT 043(238)5963
FAX 043(238)5967

国労は若い力を
待っている

何故「みどりの窓口」は無くなった!?

観光協会からも問い合わせ



2021年度千葉連協定期委員会

運協の2021年度定期委員会が12月7日、地本会議室で行われた。当日は、佐倉分会の並木委員を議長に選出し、議事が進行された。石井議長の主催者あいさつの後、地本より越川副委員長があいさつした。

議事では、決算報告と運動の進め方が提起され討論となった。蘇我運輸区分会から「日頃の働かされさまの問題を要求するため組合を超えて全員で

利用者の不満が増大

議論しようとする案を作り、職場で回している。」木更津分会から「かずさ地区と安房館山地区で安全とサービスを守る立場で月一回議論してきている。」鴨川運輸区分会からは「女性社員が入るようだ。統括センター化に少し危惧する声が多い。」佐倉分会からは、「社員の発意で企画業務が増えている。超勤を減らすことが目的なのか。そもそも非番での超勤の問題が置き去りになっていた。今後は逆に超勤請求しづらくなってほしい。」

成田分会からは「11月から話せる券売機が入った。オペレーターと話している人が多い。観光協会から何故『みどりの窓口』が無くなったのかとの問い合わせがあった。成田は高齢者が多く機械

1年に1度の顔を見れる場

第49回鉄道退職者の会

千葉連合会定期総会開催



12月12日、地本会議室において第49回定期総会が開催された。石毛副会長の司会進行で始まり、議長に松田会員を選出して議事が進められた。

土井会長のあいさつを受け、寺尾事務局長

より活動報告と活動方針の提案が行われた。国労千葉地本議員団の元吉いすみ市議より活動の挨拶を受けた。組織拡大が喫緊の課題であり、現職の組合員と共にエルダーになった組合員の賛助会員獲得に全力をあげる、安心して老後を暮らしていくためにも年金や介護・医療といった社会保障の充実が急務であり、解決へ来年の参議院選挙での候補者の当選に全力をあげる、国労千葉地本が取り組んでいる地域の足を守る取り組みについても各

新役員体制
会 長 土井 章
副会長 水野文雄
事務局長 寺尾 勉

地域で積極的に取り組みを進めていくことなどを確認した。

また、石毛副代表が年齢的考慮から顧問に就任した。

組織強化の活動として懸案であった支部組織の立ち上げを具体的に進めていくことを確認した。

最後に、役員体制を確立して閉会した。

石井議長が集約して、運動方針と予算案が可決された。

また、次の通り、新役員体制が確認され、閉会した。

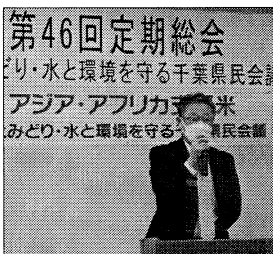
新役員体制
議長 石井 光
副議長 木村誠一
事務長 小澤康雄
会計監査 安田正浩
飯高聡明
松本光男
太田久市
石井 光
竜崎好暢

拡大分会長会議
2022年1月15日(土)13時～
千葉県教育会館604号

2022年新春労働講座
2022年1月15日(土)15時～
千葉県教育会館604号

第182回拡大地方委員会
2022年2月26日(土)10時～
千葉県教育会館303号

食とみどり・水と環境を守る 千葉県民会議



12月18日、「食とみどり・水と環境を守る千葉県民会議」の総会と県民集会在千葉県教育会館で開催された。国労も加盟団体ということもあり、総会には地本三役が、県民集会には石橋特執を加えた4名で参加。

総会は、椎名副議長（自治労）の開会挨拶

で始まり、加藤マリ子議長（I女性会議）から主催者挨拶があり、来賓として連合の永富会長、社民党の工藤代表、立民の小西参議院議員からそれぞれあいさつがあった。

農政を取り巻く情勢は、食料・農業・農村基本計画に基づき展開される中、新たに、みどりの食料システム戦略が決定され、持続可能な食料システム構築を中心とした政策推進が課題となっている。

また、世界の食料需要と供給のバランスが崩れ、全世界で生産さ

れる食品の3分の1が捨てられ、その量は年間13億トンにもなり、途上国で飢餓人口が増えるという不均衡が問題となっているという。

日本では農業従事者が減り、65歳以上の高齢者の割合も7割に及ぶなど問題は山積しているとのこと。

その後行われた県民集会では2部構成で、1部はネオニコチノイドの農業被害のビデオ学習、2部は過去三代の事務局も参加し「これまでの歴史とこれからについて」が議論され終了した。

平和を守る千葉県集会



12月10日、千葉市民会館にて、コロナ禍の影響で2年ぶりとなる2021平和を守る千葉県集会が開催された。

N関労が開会あいさつし司会を務めた。主催者を代表し坂本議長があいさつした後、各政党より来賓あいさつを受けた。

講演では、千葉朝鮮初中学校の金校長を講師に招き、朝鮮学校の設立経緯などの歴史、補助金を出さない日本政府や自治体などの問題、民族問題、今後に向けた取り組みなどを訴えた。

参加者は、普段はなかなか聞くことのできない朝鮮学校の問題を熱心にメモを取りながら聞き入っていた。

東葛ユニオンが開会あいさつを述べ、お開きとなった。

集会後に、国労千葉地本の加藤委員長より、取り組んできた募金箱が千葉朝鮮初中学校の金校長に手渡された。



何でもかんでもコストダウン



休止させられた自動改札機

この間、コロナ禍での赤字を理由に、コストダウンが行われてきた。自動券売機や自動改札機は一部休止や削減がされ、利用者からの苦情の原因になっている。

視覚障がい者への配慮無し 今月15日からは、駅のホームの駅名表示板や番線表示板、さらにはエレベーターやエスカー、タターの案内板まで

消灯させられた。改札内の照明が球切れになり高所作業を依頼しても交換に来てもらえず、薄暗い中、自動精算機の締切作業を強いられている職場もある。

乗務員職場では、乗務員の勤務が事細かく見直され、出場時間や、交代時に運転士が電車のドアやパンタグラフ・走行状態をチェックする目送まで削減になる。

さらに「統括センター」が設置されると、繁忙により行路が変更になり乗務する要員の数まで変えられるようになる。

福利厚生もカット 一方、船橋市にある行田社宅が昨年廃止された。また、昨年11月15日付で、同じ船橋市にある市場社宅が来年度末で廃止される通達が出された。

職場で過半数を超える労働組合がなくなり、JR会社は、何でもかんでもコストダウンして行く。「職場に労働運動を」を合言葉に、安心して利用できる鉄道の再生と労働者が安心して働き続けられる職場を取り戻すためにも労働組合の必要性を強く訴えていく。

私たちのための社員代表を選ぼう 超働しないと生活できない!?

「国労の人が社員代表になったら36協定が結ばれず、超勤が出来なくなる。生活できない」という声を聞く。

私たちは生きるためのみに働いてはいない。仕事が終われば、次の仕事までに疲れを取り、休日には、趣味やレジャーで心身ともにリフレッシュしたい。

キッチンと勤務時間通りに働いているのだから、それだけで健康で文化的な生活を送れるだけの賃金を得られなければならない。

しかし会社は、より多くの利益を求め、より少ない人員で、いかに賃金を抑え仕事させるかという経営になっている。

そうした会社と対等に協議し、より良い労働条件や職場環境、さらには賃金・手当てを求め、職場の全労働者の利益のため、時には協定に調印することを武器に交渉していくことが社員代表の任務である。

